

平成8年2月

西田小学校同窓会 会報 (NO. 1)

西田小学校同窓会会員の皆様、こんにちは。

同窓会発足以来すでに3年余が過ぎましたが、同窓会からのコンタクトは4回の総会に出席された方のみで、地方におられる会員には、会費を頂いているだけで何も出来ませんでした。そこで、これからは年1回程度は会報を発行し、西田小の現況や会員の動向などを皆様のお手元にお届けすることにしました。

これからも同窓会へのご支援をお願い致します。

なお、平成8年の総会は10月に開催の予定で、追ってご案内を差し上げます。

会長交替のお知らせ

平成4年の同窓会設立以来会長を務められ、会の基礎作りをされた野口洋介会長（2期卒）が健康上の理由で辞任したいとの申し出があり、平成7年5月20日の理事会で、やむなくこれを受理し、新会長を宇田川允敏理事（3期卒）とすることを決め、同6月10日の総会に諮りましたところ、総会として満場の拍手を持って承認されましたので、ご報告申し上げます。

野口前会長：この度健康上の理由から会長を退任することになりました。母校創立50周年に合わせて設立された西田小学校同窓会は幾つものハードルを乗り越えて発展してきましたが、これからも新会長の元でますます発展することを祈ります。

宇田川新会長：野口前会長の下で発展してきた同窓会を、ますます充実させる為には同窓会の組織率を高めることが必要で、会員の皆様のお近くにおられる卒業生を、同窓会に参加するようお誘い頂きたくご協力をお願い致します。

同窓会の活動報告

この機会に、これまでの同窓会の活動状況をご報告致します。

・わが母校、西田小学校は平成4年に創立50周年（昭和17年6月1日開校）を迎え、この記念の年を機会に全校同窓会が結成され、10月17日には50周年記念祝賀会が盛大に挙行されました。そして同窓会より和太鼓セット1組、記念文集700冊、母校の歴史パネルセット1組を寄贈しました。また、同窓会の役員会を組織して、名誉会長に前校長の愛甲武先生をいただき、会長は第2回卒業生の野口洋介さんをお願いし、同窓会活動に協力的な方の中から理事18名、評議員22名を選定し、会則も作成し、今後の運営に当たることが決まりました。この時点での創立以来の卒業生は9,143名です。

（平成5年総会）

年が変わって平成5年6月5日に第2回同窓会総会が行われましたが、その準備のために役員一同綿密な準備会を何回も行い、その甲斐あって出席者245名（内先生方18名）と前回に引き続き盛大な総会を行うことができました。会場は学校より体育館をお借りして、型通りに活動報告、会計報告などを行ったあと懇親会に入りました。お酒、ビール、ジュースなどが準備されたのは勿論ですが、考えてみると小学校の同窓会ですから、12才の新卒業生（46名）から20才までの未成年者はお酒が飲めないわけで、そういうことも考慮しなければならないのが小学校の同窓会なのだと改めて感じました。尚、ご出席頂いた先生は（着任順）濱真喜男、粕谷高子

(沖倉)、高田トシ、岸上修、井沼正行、青木茂展、橘田宏昭、村田美枝子、弓場重和、三井知夫、佐治照子、大西陸子、岡本葉子、藤本大策、舟生清、山本宏、丸山麻雄、黒崎美智子、の先生方です。

(平成6年総会)

翌、平成6年の総会は昨年と同じ6月5日、やはり学校の体育館をお借りして行いました。たまたま日曜日だったことと、松溪中学の同窓会と日にちが近かったこともあって、参加者は105名と少なめでしたが、総会の後の懇親会は盛大に盛り上がり楽しい会になりました。

小崎佑名誉会長(現校長)のご挨拶をいただき、会長挨拶、活動報告、会計報告など型通りに進んだ後、第1期生の下田修理事の音頭で乾杯をして懇親会に入りました。

皆さん、西田には校歌が三つあるのを御存じですか。一つめは「西田健児の歌」で創立から太平洋戦争中のもので、大東亜共栄圏を作り、君の御楯となる小国民を育てる西田の歌、次は昭和21年から26年までの、「美しき西田の丘に」で始まる「西田の丘」、それから27年から現在までの「都の西よ森は繁り」の「西田小学校校歌」です。お酒も入っているので、それぞれの時代に在籍した白髪頭も混じる元小学生が当時を思い出しながら蛩声を気にもせず楽しんでいました。音頭を取って歌ってくれたのは、「西田健児の歌」は2期の田村晋一郎さん、「西田の丘」は6期の宮崎浩さん、現校歌は11期の高橋優香子さんと18期中川幸博さんでした。半世紀にわたる西田の歴史の長さを感じさせるシーンでした。また戦争中の疎開で歌った信州の歌「信濃の国」は1期から5期あたりに甘く、悲しい、つらかった疎開時代を思い出させました。伴奏をしてくれたのは45期卒業の恵羅健太郎さんでした。またオカリナ演奏で有名な明田川さん(20期)が、爽快なジャズピアノをたっぷり聞かせてくれたりと、西田の卒業生には素敵な才能を持った人が沢山いるのだと思いました。たまたま50周年に学校に寄付した和太鼓が体育館の壇上に飾ってあったのですが、10期の宇田川章さんが飛び出して太鼓の演奏をしてくれたり、各期の代表(1期・遠藤達二、2期・島貫陸、3期・土屋忠夫、5期・樋口登喜男、6期・宮崎浩、7期・宮川凡子、9期・八代捷、10期・宇田川章、11期・岡俊六、18期・鐘俊幸、19期・宇田川政幸、20期・明田川彰士の皆さん)が同期会の活動状況を報告したりと、なごやかに、にぎやかに楽しんでいる間に、一時半から始まった懇親会は定刻の4時となり、1期の志甫哲夫さんの閉会の辞と手締めで締めくくり、また来年6月頃の集まりを期待しながらお開きになりました。今回ご出席下さった先生は着任順に、吉田勇、濱真喜男、粕谷博、粕谷高子、高田トシ、岸上修、藤沢幸次、大西陸子、山本宏の先生方でした。

(平成7年総会)

今年の第4回総会は6月10日(土)午後一時から4時まで、会場はいつもと同じ母校の体育館でした。残念ながら出席者は回を追うごとに少しずつ減りがちです。今回もこの点が事前の気がかりでもありました。ふたを開けてみると、確かに前回より少なかったのですが、予想を上回る77人が参加、このため、途中で食べ物を追加したほどです。会の後半には初夏の陽光がさすなど、お天気に恵まれたのも幸いでした。

特に懇親会は、次第に交換の輪が卒業年次の垣根、テーブルの違いを超えて広がり、それらが溶け合って、まとまりの良い雰囲気になっていました。参加数はともかく、催し企画を含め中身の濃い総会だったというのが事後、幹事たちで一致した感想です。

議事の部、第一の議題は「会長交替の件」。土屋忠夫副会長(3期)が理事会を代表し、「今年に入って、野口会長から健康上の理由で辞任したいとの申し出があり、最終的に5月20日の理事会でやむなくこれを受理し、新会長に宇田川允敏理事(3期)を推戴することにした」と報告、総会としては満場の拍手で初めての会長交替人事を承認しました。

野口前会長は挨拶で、母校創立50周年への募金活動を通じて生まれた同窓会が、一つ一つハードルを乗り越え今日まで育ってきた歩みを振り返り、新会長の下でさらなる前進と発展を訴えました。野口さんには、全員一同の感謝と健康回復への願いを込めて、今年3月卒業した最も若い会員の大久保知恵さん(52期)が代表して花

束を贈呈しました。

宇田川新会長は、前会長の功績をたたえながら、同窓会の組織率を高めるためには会員の協力がぜひとも必要だと強調し、名簿作りを進めることなど抱負を述べました。

また、平成6年度活動報告、会計報告、会計監査報告など、例年通りの議題を満場一致で承認しました。なお、来賓の瀧瀬教頭（小崎校長の代理）からご挨拶を頂き、これまでの西田小学校の歴史を振り返りながら、「西田」は「にしだ」ではなく「西田端」を略した「にした」であるご披露がありました。また、中田PTA会長の出席も頂きました。

次に、総会の模様です。恩師のご出席は（順不同で）吉田勇、濱真喜男、粕谷博、粕谷高子、高田トシ、神山敏夫、大島信夫、弓場重和、大西陸子の諸先生、皆さん元気あふれるご様子で、口調もしっかり、長短それぞれのご挨拶でした。

今回は会を盛り上げる催しとして、プロの音楽家の同窓生3人による「音楽アワー」を企画、一番手はオペラ歌手の平田（小林）洋子さん（14期）。曲目は「へえ そうかい」（大中恩作曲、谷川俊太郎作詞）、「献呈」（R. シュトラウス）。続いて青木（三浦）浩子さん（5期）のフルート、曲目は「愛の挨拶」（エルガー）、「シシリアーノ」（フォーレ）。ピアノ伴奏はいずれも田中（中原）ひろみさん（31期）でした。気持ちだけの花束を進呈しましたが、あらためて厚く御礼申し上げます。

ちなみに、青木さんは東京芸大卒、武蔵野フルート・オーケストラを主催、平田さんは母校・国立音大の先生でもあります。中原さんは国立音大卒、西田で同級だったピアニストとデュオを組むかわら、作曲・編曲も手がけるなど、皆さんご活躍中の方々です。

今回もまた、集団疎開時代世代ご執心の「信濃の国」から始まって、3世代の校歌を中原さんの伴奏で斉唱しました。さらには、恩師を混じえて1期生有志の歌う番外編も。

こうして懇親会の2時間余りはあっという間に過ぎて、閉会后みんなで後片付けにあたったのは、例年のこととはいえ、同窓会ならではの光景でした。

西田小学校同窓会のしおり

1942（昭和17）年児童数 493名 教員 12名 で発足

1995（平成7）年3月児童数 615名（内卒業生117名） 教員 28名

1995年4月新入学児童数 86名

今年の卒業生（117名）の進学先：松溪中・88、宮前中・1、他公立中・3、国立中・1、私立中・24名

創立以来の卒業生合計 9,379名（平成7年3月現在）

同窓会登録者数 865名（平成7年3月現在）

同窓会のしくみ

会員： 正会員――卒業生及び在校したもの 特別会員――西田小学校の現旧職員

役員： 会長 1名、副会長 若干名、理事 若干名、評議員 相当数、監事 2名以内

活動費： 終身会費1,000円、及び寄付金にてまかなっています

設立： 1992年5月、西田小学校50周年を迎えるに当たって設立

卒業生の皆様へのお願い

① 終身会費 1,000円を納入して下さい

- ② 同窓会発展のためにご寄付をお願いします 1口 1,000 円、1口以上何口でも結構です
- ③ クラス会、同期の名簿を整理して送って下さい
- ☆ 送金先：郵便為替 00110-8-706531 加入名義：西田小学校同窓会（各郵便局備え付けの用紙を使用）
- ☆ 名簿などの送り先：〒167 杉並区荻窪 1-21-12 宇田川允敏 宛 ☎ 03-3391-3799
- ♣ 上記の通り同窓会の会員数は卒業生の10%にも満たないのが現状です。同窓会を盛り立てる為には会員を増やすことが何よりも必要です。皆様のお近くに西田の卒業生がおられたら、会員登録をされるようお勧め頂きたく、お願い致します

会計報告（平成6年4月1日より平成7年3月31日まで）

収入の部

終身会費	178,000 円
寄付金	117,720
懇親会余剰金	135,579
預貯金利子	11,045
記念誌売上金	2,000
小計	444,344 円
前期繰越金	1,705,209 円
収入合計	2,149,553 円

支出の部

通信・印刷費	85,144 円
会議費	7,100
支出合計	92,244 円
収支計	2,057,309 円
次期繰越金	2,057,309 円

資産明細 現金： 28,918円 銀行・郵便局預貯金：2,028,391 円

★東京大空襲 私の体験 目の前で母校が焼失★

前会長の野口洋介さんの西田の小学生時代の思い出が、平成7年4月1日の朝日新聞に載りましたので、ご紹介致します。野口さんは雪印乳業をご卒業され、現在は食品評価研究所長をされております。

昭和二十年三月九日夕方、集団疎開先の信州・別所温泉を下級生、寮母さんに見送られて出発する。我々六年生は中学受験のため再び、母のもとに帰れる喜びでいっぱいであった。

熊谷を過ぎて朝食用のおにぎりを口にして、東京方面を見ると上空は暗いのに、地上に近い方だけがやけに明るい。神様が早く東京に着くように夜明けを早くしてくれたのかとさえ思った。

しかし、これが東京大空襲の結果だったのである。上野まで行く予定が赤羽で下車させられる。ホームは国電の下の方にあって、外はよく見えなかったが、眼前に大きな火柱が立ち、ごうごうと音を立てて、炎を上げている。山手線、中央線を乗り継ぎ荻窪で降りて、わが母校の杉並の西田国民学校に着いた。学校の丘から東の方を見ると白い煙が立ちのぼっていた。あの炎の下で多くの人が焼死したことであろうと、複雑な思いでわが家に帰った。

二か月ほどして母校が焼けた。ヒューヒュー・ザーザーという、腹の底にしみとおる音と共に眼前から火の手が上がる。焼夷弾はわが家から二百メートル離れた国民学校を目がけて落ちる。学童が疎開した後、兵隊さんが駐屯していたため狙いうちされたとらしい。

・給水塔が火の塊になって倒れ、二階の音楽室のグランドピアノが大音響を立てて落ちて、火の海に沈んでいった。翌日、行くと見ると、焼死した兵士をアオギリの木の下に埋葬しているところであった。これまでは兵隊さんは神様のように思っていたが、数十人の汚れた服を着た兵士を見た時、何か虚脱感に浸ってしまった。（終）